

平成 18 年度コミュニティ・スクール推進フォーラムにおける実践発表資料

学 校 名	京都市立洛央小学校
所 在 地	京都市下京区東洞院通仏光寺東入る仏光寺町 21-4
電 話 番 号	0 7 5 - 3 4 4 - 2 0 9 3

1. 実践発表のテーマ

『夢を抱き 生き生きと目を輝かせて学び合う 洛央の子』

～ 学校・家庭・地域の協働による温かい学びの創造 ～

本校は、市内中心部に位置する豊園・開智・有隣・修徳・格致の5つの小学校が統合し、平成4年4月に新しく開校した学校である。

統合した5つの小学校は、いずれも明治2年、町衆の教育にかける情熱を結集し全国に先がけ番組小学校として開校し、地域の人々のシンボルとして愛され親しまれてきた歴史と伝統を誇る学校である。しかし、年々児童数が減少していく中で、21世紀を担う子どもたちの教育を第一義に考えた各学区民が「断腸の思い」で統合を決意され、全国的にも例をみない5校統合が実現したのである。

校区の四条通・河原町通は、京都の中でも商業の最も盛んな地域で、百貨店・銀行・証券会社などを始め、大小様々な店が軒を連ね、烏丸通は、企業や銀行の多いオフィス街をなしている。

一方、小路へ入ると、古くからの伝統産業の店も多く、仏具・扇子・呉服・京人形・染め・組紐・提灯など、京都ならではの店がたくさんある。

また、日本の三大祭の一つといわれる祇園祭の山鉾32基の内16基を有し、7月は祇園祭一色となる。まさに伝統文化の真ただ中に位置している学校でもある。



岩戸山の前で“エンヤヤー-洛央”を踊る2・3年生

このような恵まれた教育環境を生かした学校づくりこそが、「子どもたちの“夢”実現に向けた『学ぶ楽しさ』と『生き方』を学び合う洛央の子どもづくり」になると考えた。そこで、地域を知り地域に学ぶ学校づくり、すなわち『学校・家庭・地域の協働による温かい学びの創造』を目指し、地域を学びの場とする「地域ぐるみの学校づくり」を推進している。

2. 実践の推進体制

本校は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正、施行に伴い、平成17年10月13日に学校運営協議会を設置する学校として京都市教育委員会より指定を受け、地域に開かれた、地域に根ざした、学校を「核」とする真の「地域ぐるみの学校づくり」を進めるべく、『洛央いきいきコミュニティ』を設置した。

設置に当たっては、今日まで本校の特色ある教育活動の一翼を担ってきた「学校支援ボランティア」を核に、歴代のPTA本部役員の中から元学区を考慮した準備委員会を立ち上げ、「学校運営協議会」の組織づくりをした。

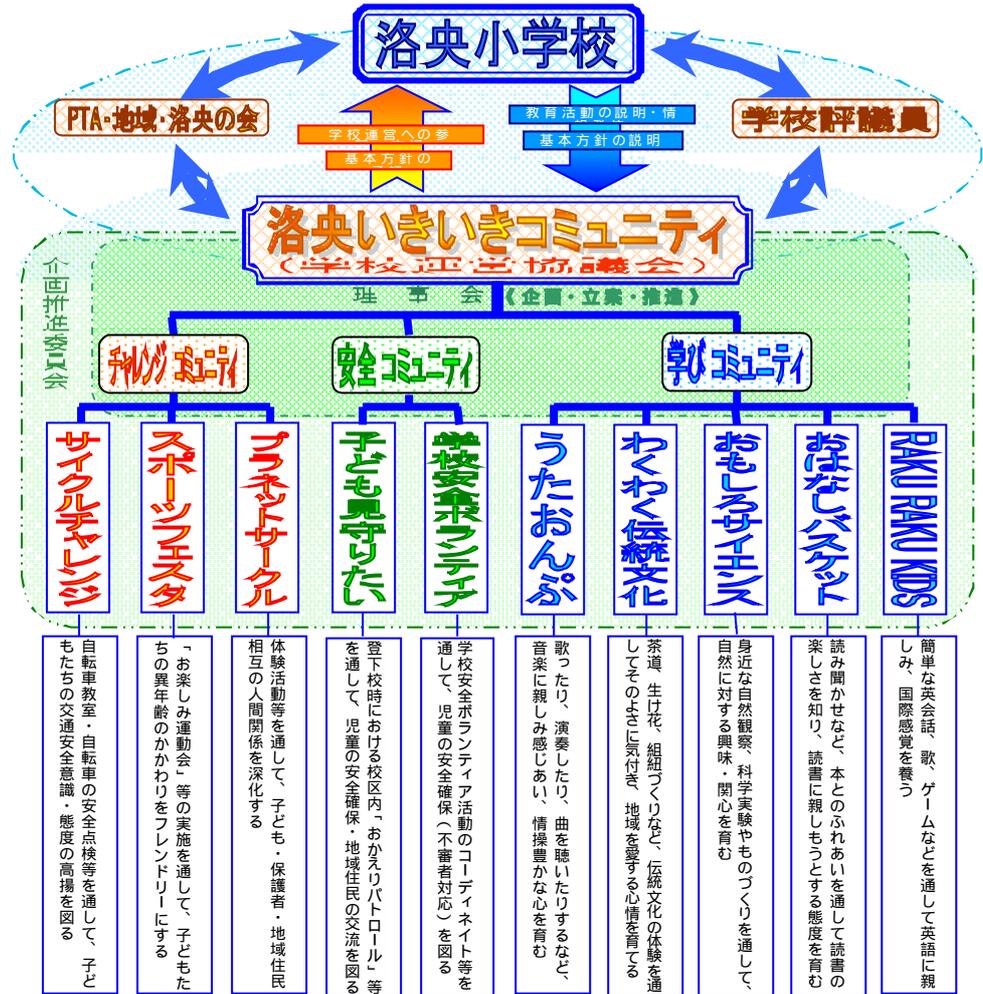
そして、学校・家庭・地域が一体となって校長の進める学校運営を一層強固なものにしてきた。

このことにより、地域の人たちや保護者が教育活動に参画しやすくなり、洛央教育の推進を自分たちのものとして捉えることができ、学校での教育活動への関心がより高まり、愛着が持てるものになると

考えた。

また、子どもたちが直にその道の専門家から学ぶ機会が増えるなど、地域の教育力を洛央教育に取り入れること（地域を知り、地域に学ぶ洛央教育 地域を学びの場に）により、子どもたちの学びを刺激的でインパクトの強いものにすることができ、教育活動の一層の活性化に繋がると考えた。

洛央小学校 学校運営協議会制度 （洛央コミュニティ・スクール）



- (1) 『洛央いきいきコミュニティ』
- 「学校運営協議会」を、「洛央いきいきコミュニティ」と呼び、会長1名、副会長2名を含む11名の委員で構成し、10のボランティア活動組織を担当する。

- 学校からの教育内容の説明や学校運営の基本方針の説明を受け、基本方針を承認するとともに学校運営への参画・支援を行うための理事会を設けた。
- 「洛央いきいきコミュニティ」のもとに、『学びコミュニティ』『安全コミュニティ』『チャレンジコミュニティ』の3つのコミュニティを設け、それぞれのボランティア活動組織で構成する「企画推進委員会」を設けた。
- 「洛央いきいきコミュニティ」の委員は、若年者のメンバー構成にし、「学校評議員」は、学校と「洛央いきいきコミュニティ」の顧問的な位置づけにした。

- (2) 『学びコミュニティ』

- 子どもたちの学習活動に直接的に関わる教育支援ボランティアで構成し、英語活動（1・2年生対象）・読書活動（1・2年生対象の読み聞かせ・読書環境づくり）・理科教育・音楽教育等の学びの充実に向けた教育活動を支援する。

- (3) 『安全コミュニティ』

- 登下校時や学校内での子どもたちの安全確保に関わる企画立案等の活動を通して、不審者対応への取組を進めるとともに、子どもたちと地域住民・保護者間の顔見知りを増やす。



下校時の子どもたちを見守る「子ども見守りたい」の方々

(4) 『チャレンジコミュニティ』

- ・ 学校での教育活動とは一味違った体験活動の提供を通して、子ども・保護者・地域住民相互の人間関係を深化させるとともに、子どもたちのフレンドリーな関わりを推進し、社会のマナーの高揚を図る。

3. 実践の成果と課題

今日の学校教育は、学校だけの力でその目的を達成できるものではないことは、ご承知のとおりである。学校は、家庭や地域の教育力を結集し、質の高い学びの環境でもって子どもたちを育てていく必要がある。

すなわち、学校・家庭・地域がそれぞれの責任を果たしつつ一体となって学校教育に参画することは、子どもたち一人一人の“夢”実現に大きなエネルギーを与えることになると思う。

《実践の成果》

(1) 質の高い学びの環境の提供により、学習活動の充実が図れた。

- ・ 教職員に限定されていた今日までの教育活動の垣根を越えることにより、子どもたちがより専門的で質の高い教育活動に出会い、新たな教育活動の展開として発展できた。

(2) 子ども・保護者・地域住民・教職員のふれ合いによる地域ぐるみの学校づくりの推進が図れた。

- ・ 学校支援ボランティア活動を通じた授業等の教育活動への参画により、子どもたちや保護者・地域住民相互の交流も深まった。
- ・ 活動を通して、お互いが顔見知りになることで、声かけもしやすくなり、地域の安全性の向上につながってきている。

(3) 保護者・地域住民の探究する姿が、子どもの探究心の向上に繋がった。

- ・ 保護者等が教材研究をする姿の見聞を通して、学ぶこと・探究することの楽しさを感じることに一助となった。

(4) 保護者・地域住民の教育活動に対する視野が広がった。

- ・ 我が子のみでなく多くの子どもたちへの関わりを通して、子育てへの視野も広がり、互いの苦労も共有でき、教育活動が深まりのあるものになった。

《実践の課題》

(1) 開かれた「学校運営協議会」として、どのように維持していくか。

- ・ 「学校運営協議会」が、いつまでも開かれた状態を維持し、限られた人の集まりとして閉鎖的にならないように新しい人材の補充と育成（新陳代謝）を如何に図っていくか。

4. 今後の取組

(1) 地域人材の教科学習への導入等、学力向上に向けた積極的な人材活用を推進していきたい。

(2) 一層活発な「洛央いきいきコミュニティ」の推進に向けて、財政基盤の確立を図っていきたい。



「くみりも」を体験する伝統文化クラブの子どもたち



「おはなしバスケット」で、
絵本の読み聞かせを楽しむ子どもたち



「うたおんぶ」でリズムや歌を楽しむ子どもたち



RAKU RAKU KIDSで英語を楽しむ2年生